

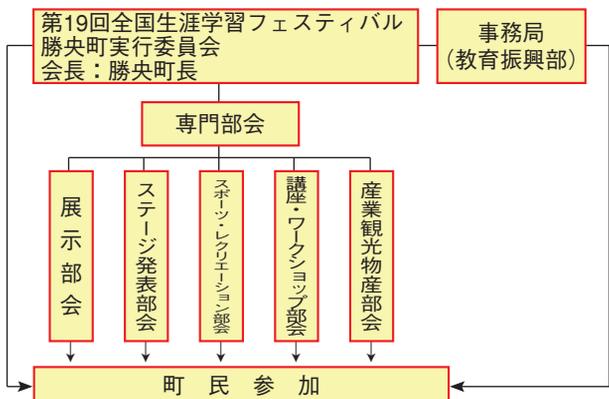
勝央町

1 推進体制（組織図）

勝央町は、第19回全国生涯学習フェスティバルの開催にあたり、5つの専門部会からなる実行委員会を平成18年9月27日に設立し、開催準備に着手しました。委員長には勝央町長が就任し、副委員長3名、委員22名の総勢26名の実行委員と、各種団体の代表者やボランティアにより構成された5つの専門部会の委員47名で推進体制を整えました。

フェスティバル開催までに実行委員会3回、専門部会は15回実施。地域開催地としての主催事業の内容や実施方法及び参加事業の取りまとめを、各種団体の協力・連携を得ながら、各専門部会が中心になって行い、全ての事務局は勝央町教育委員会教育振興部に置きました。

〔組織図〕



2 基本方針

勝央町では、岡山県の事業展開方針である「だれでもが参加、交流、体験でき、学びを身近に感じることができる」「おかやま国体で培った『おもてなしの心』を引き継ぎ官民協調を發揮」「開催の成果が継承される」「岡山発まなびスタイルを全国に発信する」に沿って、専門部会で協議し事業計画を立案しました。

まず、本フェスティバルにおける勝央町の役割を、「フェスティバルの基本計画の趣旨を踏まえ、地域の特色を生かした事業を展開する」「既存の事業を統廃合したり、魅力的な事業を加え財政の効率化を図る」「町民だれでもが参加でき、活気ある大会とする」「学校等と連携を図り、社会体験事業として参加できるよう工夫する」と位置づけ次のような事業を計画しました。

- (1) 文化祭（作品展示とステージ発表）の開催
- (2) 町民音楽祭の開催
- (3) ニュースポーツ体験教室の開催〔新規〕
- (4) 参加型レクリエーションの開催
- (5) 講座、ワークショップの開催〔新規〕
- (6) 観光物産イベントの開催

3 企画運営・事業展開

(1) 実施事業

実施事業の決定に当たっては、岡山県の「開催理念」「事業展開の方針」に沿って、第19回全国生涯学習フェスティバル勝央町実行委員会で協議し、実施を決定しました。

○主催事業（7事業）

①第19回全国生涯学習フェスティバル in 勝央〔展示部門〕

日時／11月3日（土）・4日（日）10：00～18：00
会場／勝央町公民館・勝央美術文学館



②第19回全国生涯学習フェスティバル in 勝央〔ステージ発表部門〕

日時／11月3日（土）10：00～17：00
会場／勝央文化ホール

③歴史探訪ウォーク「出雲街道と長尾山石仏の道」

日時／11月3日（土）10：00～15：00
会場／勝央町植月地内 長尾山石仏の道
勝央町勝間田地内 出雲街道



④第3回しょうお町民音楽祭

日時／11月4日（日）13：00～17：00
会場／勝央文化ホール

⑤勝央町健康づくりフェスティバル

ーわがまち再発見！ウォーキング大会ー
日時／11月4日（日）9：00～13：00
会場／勝央町勝間田地内



⑥3世代交流ふれあいグランドゴルフ大会

日時／11月4日（日）13：30～16：00
会場／勝央緑地運動公園グランドゴルフ場

⑦ファーマーズ朝市&ふれあいテント村

日時／11月3日（土）・4日（日）9：00～14：00
会場／ノースヴィレッジ、勝央文化ホール

○参加事業（3事業）

①小企画16 額田六福VS白野弁十郎

期間／10月12日（金）～12月16日（日）

会場／勝央美術文学館

内容／勝央町出身の劇作家額田六福の作品「白野弁十郎」にスポットをあて、作品に託した作者の思いを作品資料でたどりました。

②郷土の画家シリーズ「日原晃没後10年」

期間／10月12日（金）～12月16日（日）

会場／勝央美術文学館

内容／津山市出身で戦後の県北美術に大きな足跡を残した故日原晃氏の没後10年にあたり、その作品を展示しました。

③森林学習講座【主催／岡山県林業試験場】

日時／11月6日（火）10：30～15：30

会場／岡山県林業試験場

内容／岡山県林業試験場はどんなところ？森の不思議な話や炭焼きなど、見て、聞いて、体験して、森林や林業について考えました

(2) 送迎バスの運行

11月3日（土）と4日（日）の両日は、フェスティバル会場と町内各地を結ぶ送迎バスを運行しました。

(3) ボランティアの参加・協力

「第19回全国生涯学習フェスティバル in 勝央」の実施にあたっては、ホールボランティアを始め、事業の運営スタッフとして、勝央町文化協会、勝央町体育協会等から多数のボランティアの協力を得ることができました。

4 広報啓発

(1) 屋外広告物

- ① 勝央町総合文化施設に「第19回全国生涯学習フェスティバル in 勝央」の啓発看板を設置
- ② 勝央町役場・勝央町公民館・勝央美術文学館・勝央文化ホール・おかやまファーマーズ・マーケット「ノースヴィレッジ」などに「まなびピア岡山2007」のノボリを設置

(2) 印刷物

- ① 広報「しょうおう」に、平成19年7月号から毎月特集ページを設け、準備状況や事業内容を周知
- ② 勝央町が開催する主催事業や参加事業を掲載したチラシを作成し全戸配布（7月1日）
- ③ 生涯学習フェスティバルのポスターを作成し、町内の公共施設等に掲示（8月）
- ④ 小中学生の事業参加を得るため、専用のチラシを作成し、児童生徒に配布（10月）

⑤ ステージ発表部門・町民音楽祭のプログラムを事前に全戸配布（11月1日）

⑥ 大会ガイドブック等を各公共施設窓口に設置

(3) その他

- ① プレイメントとして「勝央町生涯学習フェスティバル」（平成19年1月28日～29日）、「勝央町健康づくりフェスティバル」（平成18年10月1日／マナビィの着ぐるみ出動）を開催
- ② 生涯学習フェスティバルの啓発活動のため大会マスコット「マナビィ」によるPRを、「第18回金太郎フェスタ」で実施（平成19年7月8日）
- ③ 大会期間中、生涯学習見本市に参加
- ④ 生涯学習見本市に常駐する職員用に大会マスコットの入ったトレーナーを製作
- ⑤ 総合開会式のオープニングで大会イメージソングを合唱する勝央町少年少女合唱団ユニフォームとして大会マスコットの入ったトレーナーを製作
- ⑥ 防災無線の定時放送を利用し、事業のPRや参加者の募集等を実施
- ⑦ 報道機関にイベント案内を送付

5 成果と課題

(1) 成果

- ① 両日も好天に恵まれたことと、既存の事業を統合、集約して行ったことにより、単独で行ってきた今までと比較し、多くの集客力がありました。
- ② 鑑賞するだけではなく、参加・体験できる場としてワークショップを初めて開催しましたが、参加者も予想以上に多く、学習の動機付けにつながったと思います。
- ③ 今回のフェスティバルを通じ、参加者相互の交流が深まり、生涯学習に対する認識も更に深まったように思います。

(2) 課題

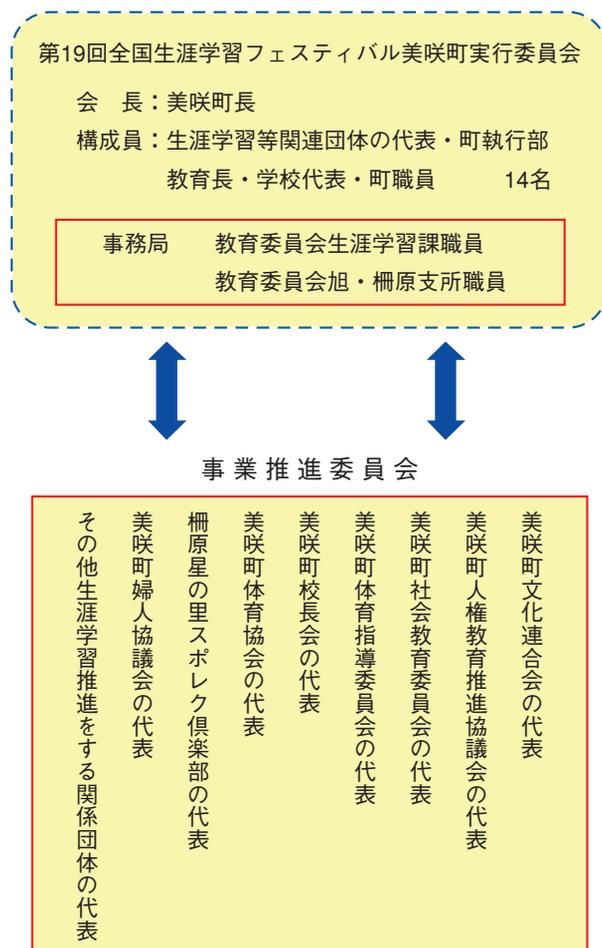
- ① 2日間に7つの主催事業を行ったので、特にステージ部門の発表では、仕込・リハーサル・本番に長時間を費やし、ボランティアを含めスタッフにはかなりの負担となったので、日程に余裕を持つべきだったと思います。
- ② フェスティバル通じて、各種団体と行政の連携により広がった生涯学習の輪を、今後、本町の地域の特色を活かしつつどう展開していくか、また、まちづくりに如何に活かしていくかが課題であると考えます。

美咲町

1 推進体制（組織図）

平成18年10月13日に奥村忠夫町長を会長に、第19回全国生涯学習フェスティバル「まなびピア岡山2007」美咲町実行委員会（委員14名、以下「実行委員会」とする。）を設置しました。

【組織図】



2 基本方針

美咲町において開催する“まなびピア岡山2007”は合併3年目を迎え、美咲町の生涯学習の大きな基点とすることをねらいとすると確認されました。つまり、①これまでの各旧町で培われてきた「学びの活動」をさらに充実させながら、これからの新町としての「美咲町らしさ」の「学び」を創造していくこと②それら「学びの」継承、発展を大きな目的としました。と同時に、③このフェスティバルの開催を通して3地区の町民同士の交流と親睦も深めながら、美咲町としての一体感をつくっていくことも忘れてはいけない大きな目的のひとつとなりました。

加えて、④その美咲町での「学び」を町外、あるいは県外に発信していくこと、生涯学習の成果を積極的に情報発信していくことも重要と考えました。

美咲町テーマ

「美しい学びの花を咲かせよう！」

～美咲体験物語 序章～

全国生涯学習フェスティバルにおける美咲町の役割

- 美咲町として、基本計画の趣旨を踏まえつつ、地域の特色を活かした生涯学習事業を自主的に企画・運営する。
- 既存の事業を拡大したり、リニューアルしたりして充実したものにする。
- 活気のある大会にする。
- 全国・近隣市町村から集客を図る。
- 学校等と連携し子どもたちの参加も促す。

3 企画運営・事業展開

(1) 企画・運営

事業全体の基本構想、及び事業計画については、実行委員会で話し合い確認していきました。また、具体的部分については、実行委員会と連携しながら事業推進委員会で行いました。この組織の構成は図にも示してあるように、各協会、団体等の代表になっていましたので、具体的な事業の足並みをそろえるといった点でも、連携を取るといった点からも有効に推進することができました。そして更にそれらを受け、実際の運営実施については、各団体、組織で検討していただきながら、進めました。以上の3段階（構想→計画→運営・実施）で推進したことにより、協力体制と実際の連携が強化されたようです。

(2) 事業展開

- ① 主に実行委員会が中心となる事業
 - ア. ポスター、広報紙への掲載
 - イ. 啓発活動
 - ウ. オープニングセレモニー
- ② 各種協議会が行う事業
 - ア. 美咲町人権教育推進競技会
「MISAKIいきいきハート講演会」
- ③ 社会教育施設が中心となる事業
 - ア. 美咲町立図書館
「親子読書フェア」
 - イ. 美咲町立旭図書館

- 「マナビイ子どもフェスティバル」
- ウ. 美咲町立柵原図書館
- 「いっしょにマナビイお話フェスタ」
- エ. 美咲町柵原ふれあい鉱山公園
- 「マナビイふれあいフェスティバル」

- ④ 学校での事業
- ア. 地域学校公開
- イ. 地域邦楽演奏会
- ウ. 学校創立記念事業

4 広報啓発

(1) 町広報紙へのPR

全戸配布の町広報紙「みさき」にそれぞれの事業概要の紹介、案内を掲載しました。

(2) 各種イベントでのPR

各種のイベントがあるたびに、要項へのロゴ等の掲載、またティッシュ、リーフレット等の配布をしながらPR活動をしました。

(3) 野外掲示物によるPR

庁舎に懸垂幕をかけました。また、庁舎、各社会教育施設等、学校に県実行委員会から配布のあったのぼり旗を設置しました。

(4) ポスターでのPR

主催行事はもちろんのこと、協賛事業等も掲載したポスターを作成しました。町内外の庁舎、社会教育施設、学校・園、駅金融機関に約80箇所に掲示しました。

(5) 告知放送でのPR

告知放送で各事業の概要、募集、案内をそのつど放送しました。

(6) リーフレット、ガイドブックでのPR

県実行委員会より配布されたリーフレット、ガイドブックを教育関係機関へ配布するとともに、公共機関窓口を設置しました。

(7) その他

町実行委員会で啓発用ポケットティッシュを作成しました。マラソン大会等で県実行委員会よりマナビイ君を借り、配布しながらアピールしていきました。

5 成果と課題

(1) 成果

- ① 最大の成果として、実行委員会を中心として、各社会教育関係団体の長で構成された事業推進委員会、あるいは各関係団体において事業を企画するメンバー、具体的な場面で事業を運営するスタッフ、加えて多くの参加者で構成された大きな「学びの輪」が生まれたということです。つまり、このフェスティバルの取組で目指してきたあらたな生涯学習のネットワークが確認できました。
- ② 新しい生涯学習の場の構築ができたことです。基本方針でも確認されてきたように、3地区（旧町）の生涯学習の成果の交流も進めてきたところですが、結果として、その成果の交流の場自身が実は新たな「学び」の場になっていました。もちろん相互の交流も深められ、少しずつですが、美咲町としての町民の一体感ができつつあります。
- ③ 今回のフェスティバルについては各社会教育施設（図書館、資料館）、や学校（小・中）などの教育に関係する様々な施設も巻き込みながら開催することができました。
- ④ 県主催場の見本市では、町内から募集した企業と連携して全国に美咲町をアピールしていくための展示コーナーを設置できました。官民協働の町づくりを推進していく意味でも成果となりました。

(2) 課題

- ① 各事業ごとのPRはある程度浸透したものの、「生涯学習フェスティバル」という看板が浸透しにくかったようです。フェスティバルの各事業へ参加を予定している方からでも、「生涯学習フェスティバル」は何をするのだろうか？という質問があり、フェスティバルの一環として個々の事業が計画されているというイメージが作りにくい面があったようです。その原因のひとつは、既存の行事のリメイクであったり、組み換えであったりしていたためだと考えられます。
- ② 特に3地区の文化協会を中心にして行った「美咲町生涯学習フェスティバル」は初の試みで、参加者にとっても“学び”の新たな広がりが感じられたようです。その広がりを来年度からも継続していくことが大きな課題となってきます。
- ③ ネットワークという意味で、各市町村実行委員会と県実行委員会との連携はある意味で取れていました。しかし、隣の市町村と、あるいは美作地区との市町村とこういった大きなチャンスに、連携した事業、交流事業、あるいは広報交流があってもよかったと考えます。

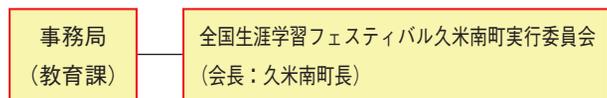
久米南町

1 推進体制（組織図）

久米南町長を会長とする全国生涯学習フェスティバル久米南町実行委員会（委員14名、以下「実行委員会」という）を平成19年3月28日に設立、事務局を教育委員会教育課内に設置しました。

なお、実施事業については、既存の事業を活用し、運営等はその事業を実施する予定であった関係機関・団体が行うこととしたため、部会等の組織を設置しませんでした。

【組織図】



主 催 事 業	乙武洋匡トークショー（実行委員会）
	久米南町保健福祉大会（久米南町健康体力づくり推進協議会ほか）
	久米南町児童生徒図工・美術作品展（実行委員会）
	久米南町児童生徒川柳作品展（実行委員会）
	スペシャル・えほんタイム（久米南町図書館）
リサイクルブックフェア（久米南町図書館）	

協 賛 事 業	第59回西日本川柳大会（弓削川柳社）
	第25回久米南町文化祭（久米南町文化協会）

※ 事業名の後の（ ）書きは主催。

2 基本方針

久米南町では、地域開催事業として独自の基本方針は設けませんでした。岡山県の事業展開の方針のうち、「だれもが参加・交流・体験でき、学びを身近に感じることができるフェスティバル」「岡山国体・全国障害者スポーツ大会で培った『おもてなしの心』を引き継ぎ、官民協働のパートナーシップを発揮できるフェスティバル」「開催の成果が継承されるフェスティバル」「岡山発まなびスタイルを全国に発信できるフェスティバル」に沿って、乙武洋匡トークショー、町内にあるすべての学校（小学校3校、中学校1校、高等学校1校、養護学校1校）の参加による図工・美術や川柳の作品展などをメイン事業として位置付けながら、地域の特色ある事業をフェスティバルに集約して開催することとしました。

特に、「日本一の川柳の町」を宣言している本町においては、「川柳」は町民の生活リズム、文化としてしっかりと根付いており、平成22年に岡山県で行われる第25回国民文化祭において、文芸祭「川柳」の開催を目指し、川柳人口のさらなる拡大への取組みを強化していることから、町内の学校の全校児童生徒の作品を展示、川柳投句箱を設置することにしました。

3 企画運営・事業展開

(1) 実施事業

実施事業の決定にあたっては、岡山県の「基本理念」及び「事業展開の方針」に沿って、教育委員会教育課と関係各課・機関・団体との間で、事業内容・運営主体・実施方法等、詳細について協議し決定しました。

○主催事業（6事業）

①乙武洋匡トークショー

日時：11月4日（日）13：30～14：45

会場：久米南町文化センターホール

内容：『五体不満足』の著者で、スポーツライター、4月からは小学校教員として活躍中の乙武洋匡氏を招きトークショーを開催。

②久米南町保健福祉大会

日時：11月4日（日）9：30～11：00（大会）

8：30～12：30（展示）

会場：久米南町文化センターホール（大会）

久米南町保健福祉センター（展示）

内容：保健福祉功労者等の表彰、「みんなで元気！吉備キビ桃太郎体操」の実施、ベル総合福祉専門学校介護福祉科非常勤講師の中野順夫氏を招き、「すばらしい活年」と題した講演会を開催。

③久米南町児童生徒図工・美術作品展

日時：11月2日（金）～8日（木）

9：00～17：30

会場：久米南町文化センター2階ホワイエ

内容：久米南町内の小・中学校、高等学校及び養護学校の児童・生徒の絵画、造形作品などの展示。

④久米南町児童生徒川柳作品展

日時：11月2日（金）～5日（月）

9：00～17：30

会場：久米南町文化センター1階ラウンジ

内容：久米南町内の小・中学校、高等学校及び養護学校の児童・生徒の川柳作品の展示のほか、川柳投句箱を設置。

⑤スペシャル・えほんタイム

日時：11月4日(日) 11:00～ 15:00～

会場：久米南町図書館観賞室

内容：乳幼児、小学校低学年の親子を対象とした絵本や紙芝居の読み聞かせ、手遊びなど。

⑥リサイクルブックフェア

日時：10月27日(土)～11月11日(日)

10:00～18:00

会場：久米南町図書館

内容：保存期限切れの雑誌、重複した本などを無料で贈呈。

○協賛事業(2事業)

①第59回西日本川柳大会(9/2・久米南町文化センターホール)

②第25回久米南町文化祭(10/13～14・久米南町文化センター)

(2) ボランティアの参加・協力

乙武洋匡トークショーにおいては、久米南町文化協会役員をはじめ、一般の方々にも運営ボランティアとして参加していただきました。

また、県の記念事業「まなびピアの旅・スタンプラリー」の運営や公式DVD用映像の撮影にも、ボランティアの協力を得ることができました。

4 広報啓発

(1) 屋外広告物

- ①久米南町役場庁舎に「まなびピア岡山2007」の懸垂幕を設置
- ②国道53号・上二ヶ地内に「まなびピア岡山2007」の啓発看板2面を設置
- ③久米南町役場庁舎、久米南町文化センター、久米南町中央公民館及び誕生寺・竜山・神目の各支館などに「まなびピア岡山2007」ののぼりを設置

(2) 印刷物

- ①久米南町広報紙への「まなびピア岡山2007」の案内の掲載
- ②「まなびピア岡山2007」のチラシを町内全戸へ配付
- ③主催事業PR用ポスターの作成し、久米南町役場庁舎、久米南町文化センター、久米南町中央公民館及び誕生寺・竜山・神目の各支館、JR津山線弓削・誕生寺・神目の各駅などに掲示
- ④「まなびピア岡山2007」のガイドブックなどを各公

共施設の窓口に配置

(3) その他

- ①町ホームページにより「まなびピア岡山2007」を配信
- ②町防災行政無線により「まなびピア岡山2007」をPR
- ③「まなびピア岡山2007」PR用ポロシャツの作製
- ④岡山県作成の広報・啓発用品を活用したPR活動

5 成果と課題

(1) 成果

- ①久米南町文化センターを中心に実施した主催事業については、トラブル・事故等もなく、予定どおりすべてを実施することができました。
- ②フェスティバル開催期間中の来場者は、いずれの事業についても予想を上回り、延べ4,000人を数えました。
- ③これまで生涯学習活動を実践してきた多くの町民の協力により、久米南町らしい町民主体による事業展開を図ることができました。
- ④全国生涯学習フェスティバルの目的である、町民の生涯学習への意欲向上、学習活動への参加のきっかけづくりなど、所期の目的を達成することができました。
- ⑤今回の全国生涯学習フェスティバルにおいての事業を実施するにあたり構築された協力・連携関係は、これから本町において開催される「国民文化祭」などの全国規模の事業を実施する際の大きな財産となりました。

(2) 課題

- ①フェスティバルの開催期間は5日間(本町の場合は期間中、6日(火)が会場の休館日があったため4日間)で、多くの集客が見込めるのが土・日ということもあり、短期間に複数の事業を実施しなければならないことが、人員的にかなり難しい面がありました。
- ②事業によっては多数の問い合わせがありましたが、会場の収容人員に限界があったため、多くの参加希望者の要望に答えることができませんでした。
- ③フェスティバル開催により醸成された生涯学習への取り組みの気運を、今後さらに盛り上げ、いかに生かしていくかが課題と考えます。